



宮城音楽療法研究会第70回特別例会

作業療法と音楽

京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻
山根 寛

A large, soft-focus graphic of two hands forming a heart shape, centered behind the title text. In the center of the heart, there is a small, rectangular image of a book cover with a yellow and white design.

ひとの一日は

さまざま作業のいとなみ

そのいとなみを積みかさね

一人ひとりの生活や人生が

風合いの異なる織物のようにつむがれる

作業をいとなみ 作業がつむぐ

ひと その作業的存在

思わぬ病い

こうやからだの障害は

日々の作業のいとなみの障害となり

生活や人生のつむぎにほころびをつくる

ひとにどうて病いや障害とは

日々の作業のいとなみの障害

生活や人生のつむぎのほころび



失いそこなわれた日々のいとなみ
その再びのこうみが

ほころびを繕い

あらたな人生をつむぎなおす

作業をいとなみ 作業がつむぐ

ひと その作業的存在

ひとは生きるために作業する

作業することで成長し

作業することで不安を軽減し

生活を楽しむために作業する

作業療法の手段は

行住坐臥

ひとが日々行っている生活のいとなみ

生活行為



人間の一日は、さまざまな作業によって成り立っている。
病いや障害は、生活という視点からみれば、原因
が何であれ、生活における作業の障害



作業療法って？

こころとからだのリハビリテーション
生活行為の向上をマネジメントする仕事

生活を構成するさまざまな行為（作業）を手段に
ひととその生活機能をアセスメントし
生活機能の障害があるもしくは予測される者に
生活に必要な行為ができるよう援助します



生活をよりよい健康な状態に

作業療法というかかわり

特性 対象の状態とニーズに応じて組み替えるシステムプログラム

役割 生活機能評価（心身機能、活動状態、生活環境、他）

生活支援機能（機能障害の軽減、リハビリティ、生活技能の学習汎化
リカバリー支援、他）

機能 ことばと作業により脳機能を鍛す

具体的な目的行動・体験による自己認識と行動変容、心身機能の改善

手段 生活行為、創作表現活動、身体活動、他

領域 医療、保健、福祉、教育、就労、他

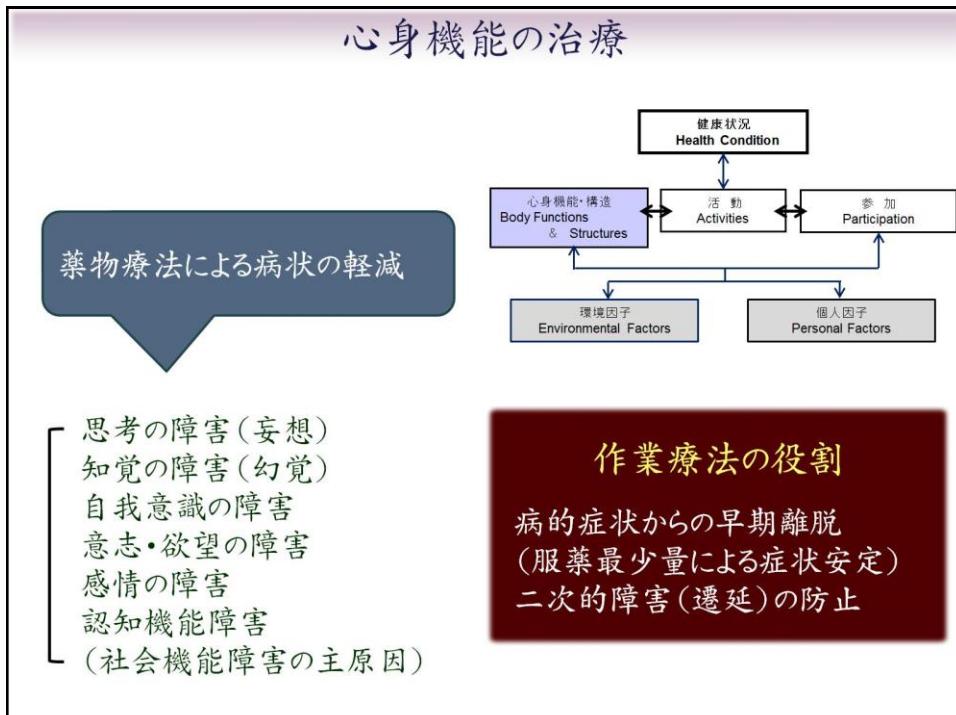
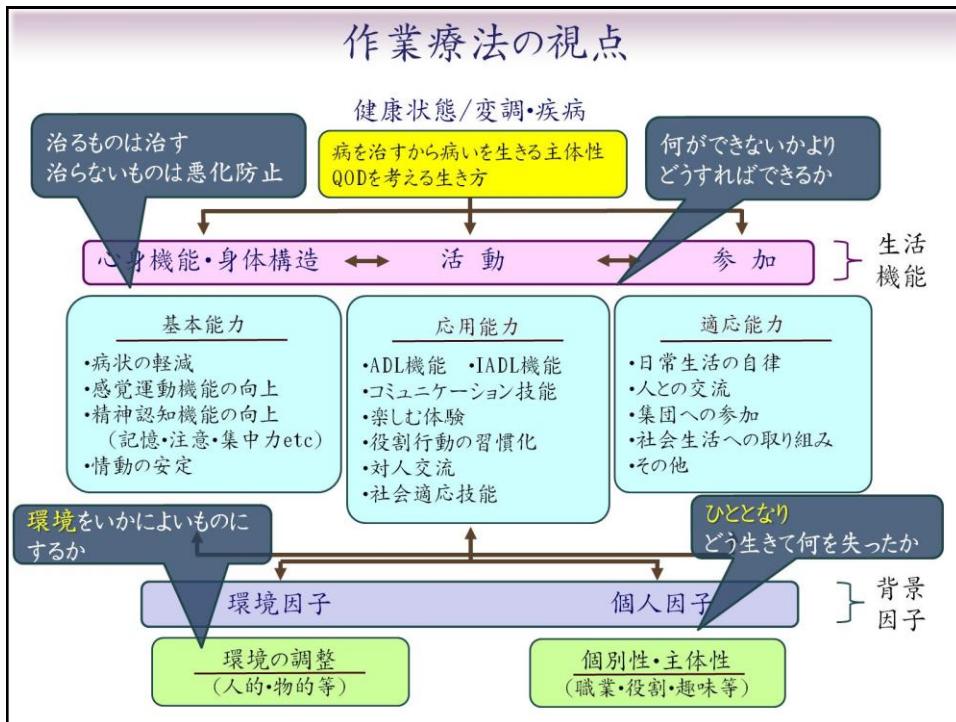
ストレングスモデルに基づき
個々の生活機能を評価し
訓練・指導・環境調整により

具体的な生活行為を通して
生活全体をマネジメントします

作業療法の特性		
種類	介入手段	特性
身体療法	薬物 運動	<i>physical</i>
精神療法	言語	<i>human verbal</i>
作業療法	作業 + 言語	<i>non-human non-verbal</i> + <i>verbal physical</i>

身体療法は症状の軽減、基本的心身機能の改善
 言語を主媒介とする対話型療法は情動の安定と自己認知
 作業療法は、具体的な体験による基本機能の維持改善・社会脳の機能向上

ひとと作業	
ひとは生きるために作業し 作業することで 楽しみ 困難や不安を乗り越える	
命を保つ	日常の自立に必要な作業(日常生活行為)
生きる	生きるための作業(採り、育て、料理、食べ、働く) 生き延びるための作業(神頼みのトランス、協働)
うまく生きる	自分の考え方や気持ち表し伝える作業
ゆたかに生きる	豊かに生きるための作業(遊ぶ・楽しむ)



活動の支援

何ができないかより
どうすればできるか
できないことをできないままにしない

```

graph TD
    HC[健康状況  
Health Condition] <--> A[活動  
Activities]
    A <--> P[参加  
Participation]
    A <--> BFS[心身機能・構造  
Body Functions & Structures]
    A <--> EF[環境因子  
Environmental Factors]
    A <--> PF[個人因子  
Personal Factors]
    BFS <--> P
    BFS <--> EF
    BFS <--> PF
  
```

生活維持活動

- ADLの障害
- IADLの障害
- コミュニケーション障害
- 対人関係技能障害
- 作業遂行技能障害
- 社会資源の利用制限
- その他の活動の制限

作業療法の役割

- 生活行為の再体験
- 生活技能習得
- 作業を介した認知行動修正

参加の支援

日常生活・社会生活への
関与に対する支援

```

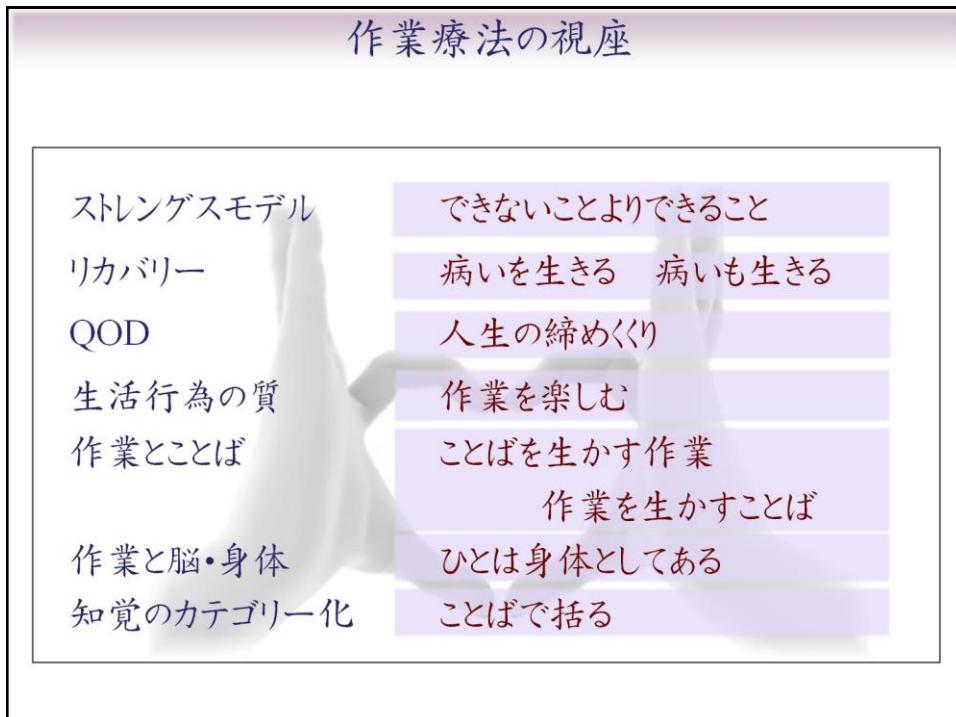
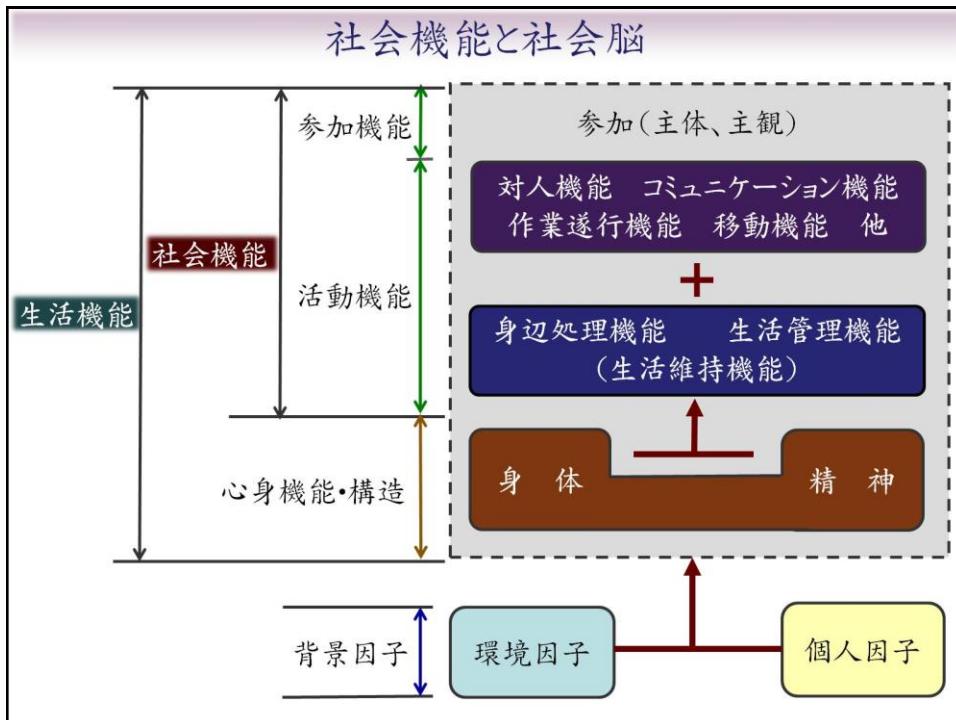
graph TD
    HC[健康状況  
Health Condition] <--> A[活動  
Activities]
    A <--> P[参加  
Participation]
    A <--> BFS[心身機能・構造  
Body Functions & Structures]
    A <--> EF[環境因子  
Environmental Factors]
    A <--> PF[個人因子  
Personal Factors]
    P -.-> BFS
    P -.-> EF
    P -.-> PF
  
```

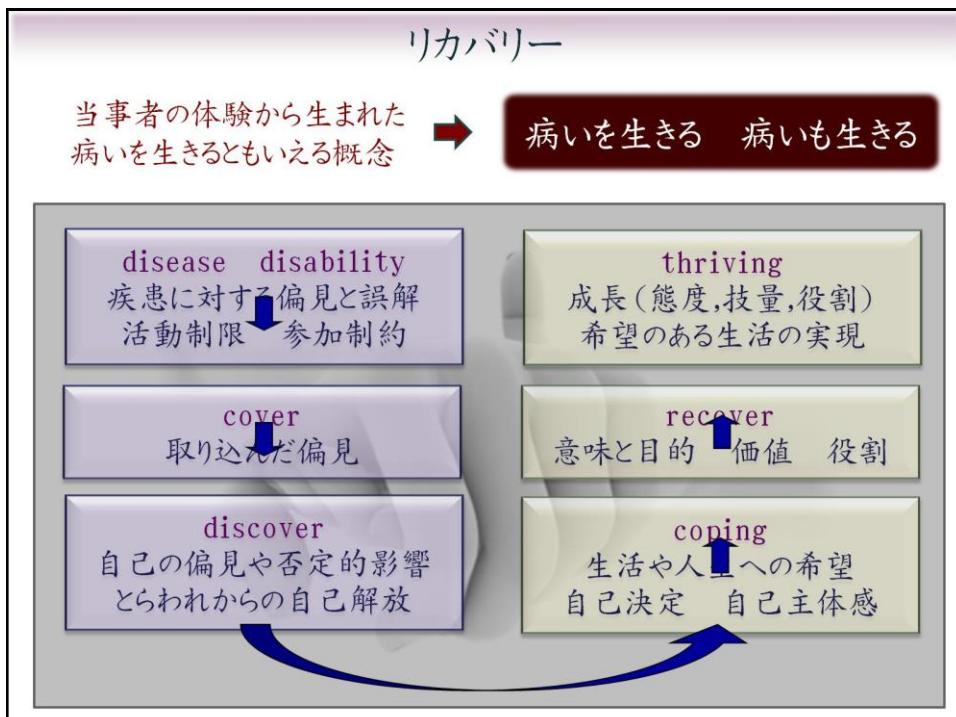
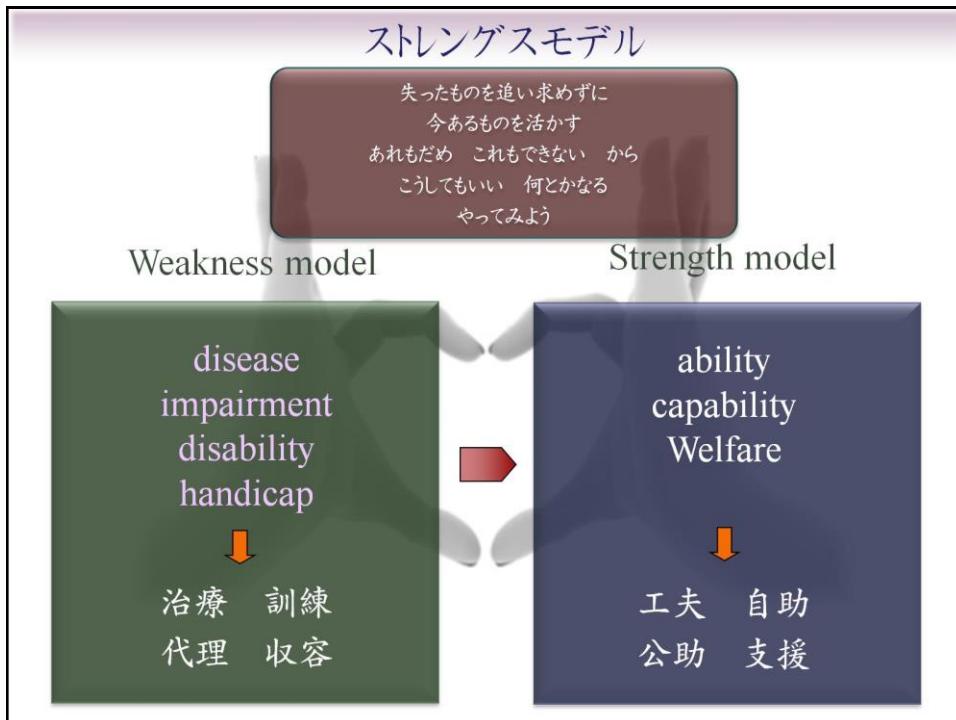
家庭生活

- コミュニティライフ
- 市民生活
- 社会生活
- 就労・復職
- 修学・復学
- その他社会活動

作業療法の役割

- セルフコントロールの支援
- 習得技能の生活への汎化
- リカバリー支援





QOD : quality of death

人生をどう締めぐるか

救命・延命 治癒

生活の量と質 quantity and quality of life
終わり方の質 quality of death



医療・医学の進歩

↓
疾病構造の変化
疾病と治療の帰結の変化

たとえば「何もできない、でも何かしないと落ち着かない」



ピンポン球大の粘土の塊

「何も作らなくていいので、この粘土をできるだけ薄くおなじ厚さになるようにしてみましょう」

特定の脳機能課題

- ・新しい知識や技術、作業遂行時に判断を要さない
- ・手順が明確
- ・適度な繰り返しとリズム



指先で粘土を摘むという単純な動作の繰り返し、粘土を薄くおなじ厚さにする(特定の脳機能課題)ための手指の屈伸にともなう深部覚、触覚からの感覚(身体の使用に伴う現実的感覚刺激)に意識が向けられます。



自分の身体から生じる現実的な感覚が脳にフィードバックされ、運動企画が見直され手指の動きが修正される。そのシンプルで感覚のフィードバックによる修正を繰り返すことだけが必要な脳機能課題が遂行されます。



ことばと作業により脳機能を糺す → 機能障害の軽減

「何も作らなくていいので、この粘土ができるだけ薄くおなじ厚さになるようにしてみましょう」という課題に、手指の屈伸にともなう深部覚、触覚からの感覚（身体の使用に伴う現実的感覚刺激）だけに意識が向けられます。単純ですが、常に感覚情報をフィードバックし運動企画を修正する繰り返し作業に脳が使われます。

作品を作るためではない作業の結果としてできたものを素焼きにし、釉をかけて焼く。

たとえば「何もする気がしない、したくない」



手で一握りできるくらいの粘土を手渡します



粘土の片方が握った親指と人差し指から2~3cm頭が出るようにします



ギューッと握ってもらいます



握った粘土の底の部分をトントンとたたいて据わりをよけます。そして、その粘土をゆっくりと回しながら正面を決め、正面が決まつたら、頭の部分をつまんだり指を押しつけて耳や鼻を作り、目や口を竹串で描きます。

このプロセスの中で、対象者の認知機能を含み回復状態をスクリーニングする、作業を介した機能評価とリハレディネス

何もする気がないと言って見ていた人が、いつの間にか粘土を握っていた。
そんな思わず手を出してみたくなる状況をつくるのも作業療法



作業療法における音楽
Music in Occupational Therapy



音楽の起源

芸術としての音楽
娯楽・芸能としての音楽
労働にともなう音楽
宗教における音楽

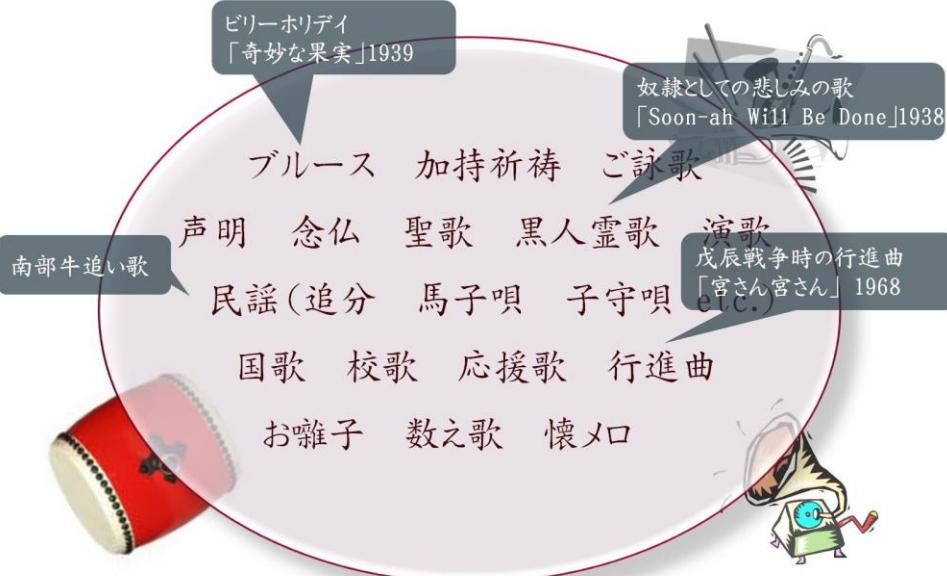


情動表出　願い・祈り　意思伝達
怒り　恐れ　喜び　哀しみ　思い



音楽は本来　ひとの暮らしの苦しみをやわらげ
祈りを助け　その中に喜びを生みだすもの

生活と音楽



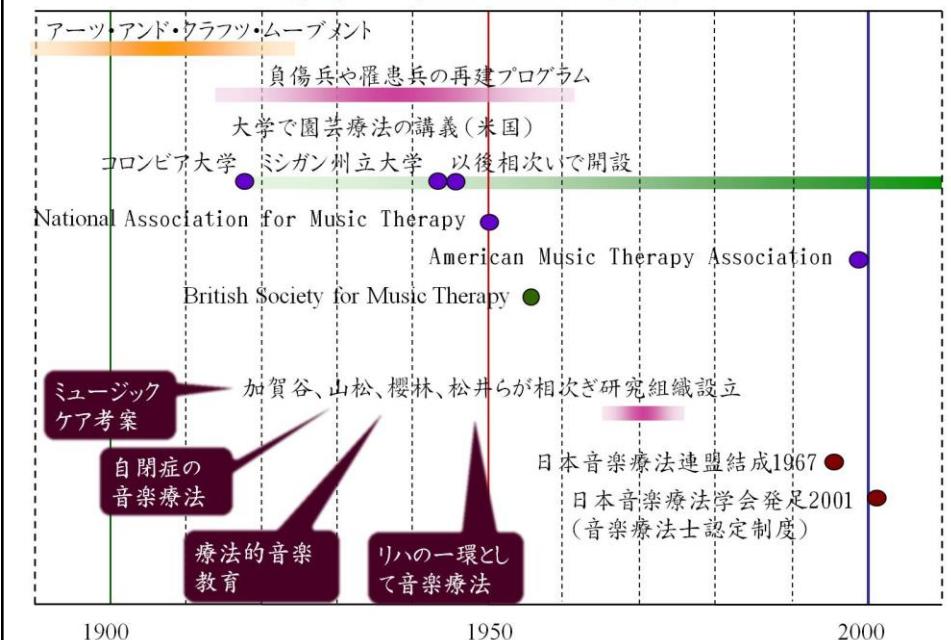
Southern trees bear strange fruit
 Blood on the leaves and blood at the root
 Black bodies swinging in the southern breeze
 Strange fruit hanging from the poplar trees.
 Pastoral scene of the gallant south
 The bulging eyes and the twisted mouth
 Scent of magnolias sweet and fresh
 Then the sudden smell of burning flesh.
 Here is a fruit for the crows to pluck
 For the rain to gather for the wind to suck
 For the sun to rot for the trees to drop
 Here is a strange and bitter crop.



第一次大戦までの
 30年間に2,732件
 奇妙な果実があった
 ひとはこの怒りと痛み
 を歌うことにより越えようとしたのだろうか。

南部の木には奇妙な果実がなる
 葉には血が、根にも血を滴たらせ
 南部の風に揺らいでいる黒い死体
 ポプラの木に吊るされている奇妙な果実
 美しい南部の田園に
 飛び出した眼、苦痛に歪む口
 マグノリアの甘く新鮮な香りが
 突然肉の焼け焦げている臭いに変わる
 カラスに突つかれ
 雨に打たれ 風に弄ばれ
 太陽に朽ちて 落ちていく果実
 奇妙で悲惨な果実

音楽の療法としての歴史



療法としての利用

- 受動的利用
- 能動的利用
- レクリエーション

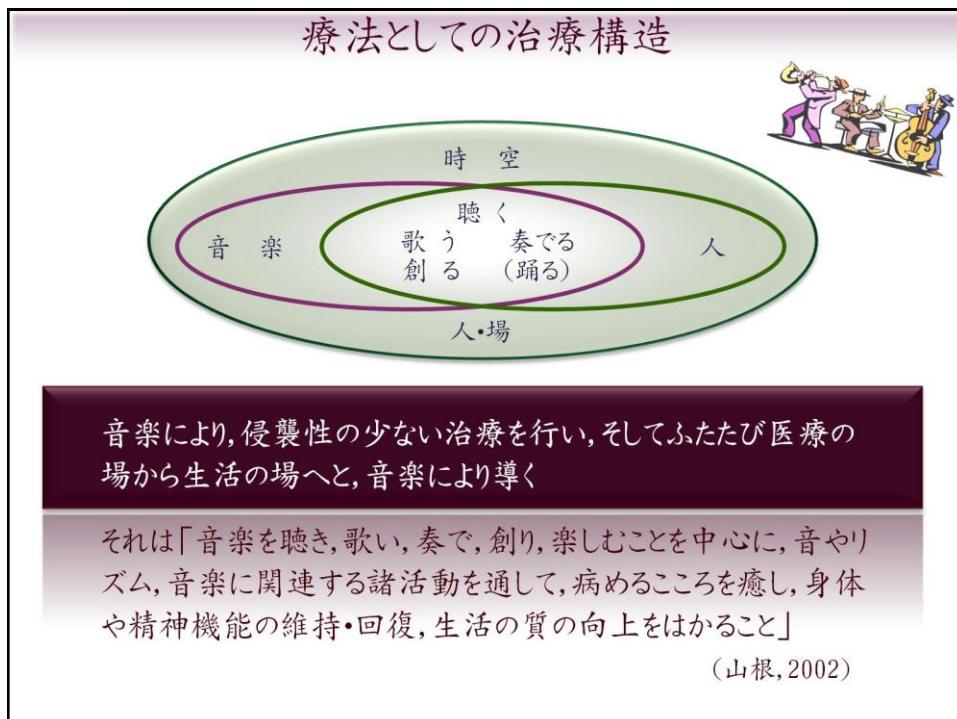
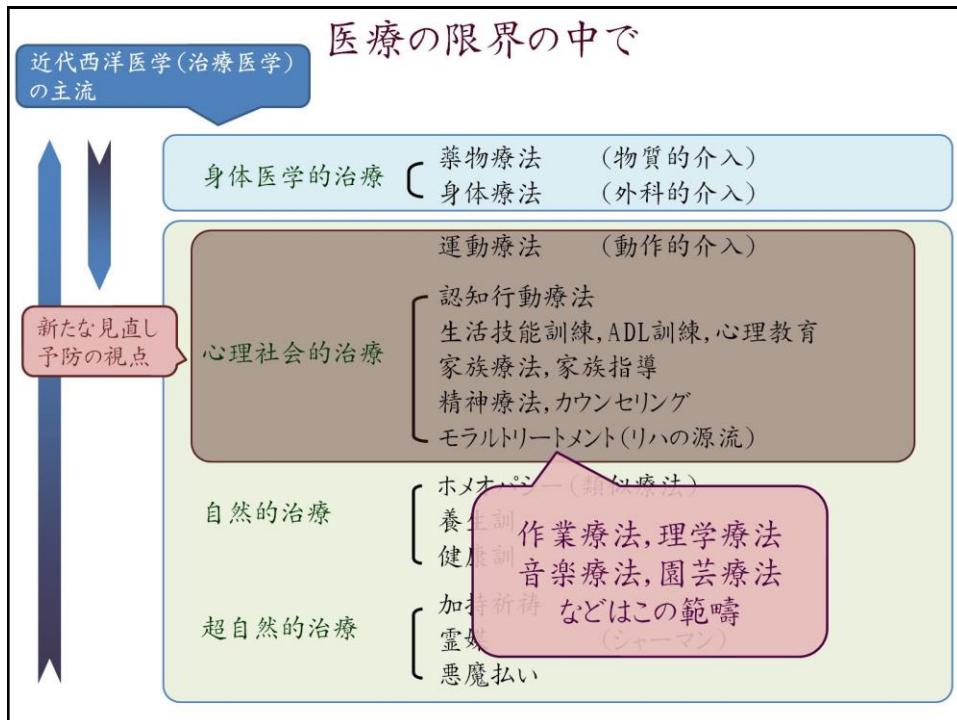
- ISO(同質の原理)
- 無意識の意識化、感情表出
→精神分析的利用
- 行動療法
→条件づけや強化に利用
- モチベーション
→ノードフ・ロビンズの技法
- イメージ誘導

- ↓
- 身体的影響(心肺機能, 発話機能, 運動機能 etc.)
 - 精神的機能(注意, 記憶, 情動 etc.)

どこで利用されているか

米国	日本
新生児集中治療科	△
子供病院	△
発達障がい者の施設	○
自閉症をもった子供の施設	○
学校(特別教育)	△
精神科施設	◎
身体リハビリテーション科	△
薬物, アルコールリハビリテーション施設	△
ホームレスの方の為のプログラム	×
生活支援施設	○
軍人病院	×
成人デイケアセンター	△
がん病棟	○
ホスピス	○
老人福祉施設	◎
色々な組織と契約(脳性麻痺協会など)	△
音楽療法士のクリニック	△

◎ : 比較的よく利用
 ○ : 施設により
 △ : 少ない
 今後の課題

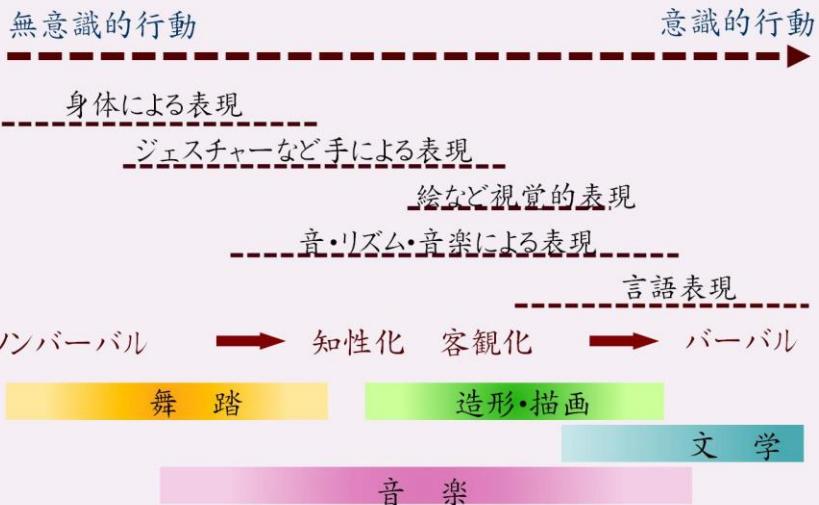


音楽をもちいる療法の治療要素

対象	音	音素材による空気の振動
	音楽	空間的形像、表現・伝達手段、芸術、文化…
	音素材	音楽を形にするもの
活動	聴く	受動:認知、感受、投影…
	歌う	身体エネルギー:音声表現…
	奏でる	身体エネルギー:楽器操作…
	創る	自己表現:自己愛充足…
	(踊る)	誘発刺激:心身機能の賦活
環境	時空	時間・空間の同時性と超越性
	場	音楽がある場・つくる場
	人	共有体験



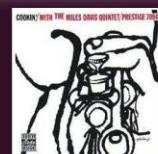
表現様式の特性と音楽



作業療法でどのように使ってきたか



感覚運動機能面に対する利用



音声と発話に関する基本的機能

音声 構音 流暢性 リズム

自律神経系機能

交感神経 副交感神経

循環器・呼吸器系の機能

血圧の安定 全身持久力 呼吸機能 etc.

神経筋骨格と運動機能の維持・改善

関節可動域 姿勢保持 歩行 巧緻動作 協応動作 etc.

精神認知機能に対する利用

全般的精神機能

意識 見当識 意欲 etc.

個別的精神機能

注意機能 情動のコントロール

統合的精神認知機能の改善

適度な鎮静と賦活

不安・痛み・疲労の軽減

情動の適応的発散(カタルシス 発散 気分転換)

自己愛・基本的欲求の充足 自我開放

回想 カタルシス

身体自我の強化 身体図式の形成

活動と参加に対する利用

感覚と知覚の応用

目的を持った生活行為における感覚的経験

コミュニケーション

じぶんの思いをどう伝えるか

対人関係

基本的な他者との交流の機会

コミュニティーライフ・社会生活

レクリエーション

自己開示

交流の広がり